

作物名（大豆）

県 名	生育ステージ		生育の状況	問題点	これまでに講じた対策 及び今後の方針
	本 年	平年対比			
茨 城 県 (水戸市)	タチナガハ 11/2 成熟期	10 日遅い	大豆生育期間（6 月 19 日～11 月 2 日）の気象は、平均気温が平年（直近 5 ヶ年）より 0.5℃高く、日照時間が平年比 133%、降水量が 85%であった。本年度は 8 月が高温少雨で推移し、8 月の平均気温は平年より 1.2℃高く、日照時間が平年比 149%、降水量が 37%であった（水戸地方気象台観測値）。	タチナガハで青立ち症状が著しく発生した。	・紫斑病及び害虫の防除を適宜実施した。
	納豆小粒 10/29 成熟期	3 日遅い	<p>開花期は、タチナガハ、納豆小粒とも平年より 2 日遅かった。成熟期は、タチナガハが平年より 10 日遅く、納豆小粒が平年より 3 日遅かった。タチナガハで青立ち症状が著しく発生した。</p> <p>タチナガハでは主茎長が平年よりやや短かったが、主茎節数、分枝数、茎の太さは平年をやや上回った。結実莢数および百粒重がそれぞれ平年を上回ったが、粗子実重は平年比 88%と少なかった。納豆小粒では、主茎長、分枝数が平年よりやや少なかった。結実莢数が平年より多く、百粒重が平年よりやや重かったため、粗子実重は平年比 112%と多かった。</p> <p>病害は、薬剤による適期防除を実施したことにより、紫斑粒等の発生がほとんどなかった。</p> <p>タチナガハは、8 月に乾燥条件が続いた影響を大きく受け、青立ち症状が著しく発生したと考えられる。</p>		

表 生育及び収量(成熟期調査)

品種	開花期			成熟期			主茎長			主茎節数			分枝数		
	本年 (月日)	前年差 (日)	平年差 (日)	本年 (月日)	前年差 (日)	平年差 (日)	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (節)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/株)	前年比 (%)	平年比 (%)
タチナガハ	8月3日	3 7月31日	2 8月1日	11月2日	13 (10月20日)	10 (10月23日)	52	104 (51)	91 (58)	14.6	107 (13.7)	108 (13.6)	4.7	105 (4.5)	106 (4.4)
納豆小粒	8月11日	0 8月11日	2 8月9日	10月29日	2 (10月27日)	3 (10月26日)	69	98 (71)	90 (77)	17.9	98 (18.2)	104 (17.2)	5.3	109 (4.8)	90 (5.9)

品種	茎の太さ			全重			結実莢数			粗子実重			百粒重		
	本年 (mm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (kg/a)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (莢/株)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (kg/a)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (g)	前年比 (%)	平年比 (%)
タチナガハ	9.6	106 (9.1)	110 (8.7)	48.7	140 (34.7)	87 (56.0)	56.8	133 (42.6)	117 (48.8)	29.2	121 (24.1)	88 (33.2)	39.0	134 (29.0)	116 (33.7)
納豆小粒	8.3	103 (8.1)	99 (8.4)	47.2	122 (38.8)	87 (54.1)	184.7	146 (126.4)	117 (157.3)	32.7	130 (25.2)	112 (29.1)	10.2	104 (9.8)	105 (9.7)

○内は前年または平年の数値。平年値は平成19年～23年(5カ年分)のデータの平均値。

茎の太さは第1節(子葉節)と第2節(初生葉節)の節間で測定。

播種日:6月19日、栽植密度:11.1株/m²(畦間60cm×株間15cm)1本立て、施肥量(kg/a):N-P₂O₅-K₂O=0.3-1.0-1.0

農研所内圃場における成熟期状況

(タチナガハ：11月2日撮影、納豆小粒：10月29日撮影)



タチナガハ

著しい青立ち症状



納豆小粒